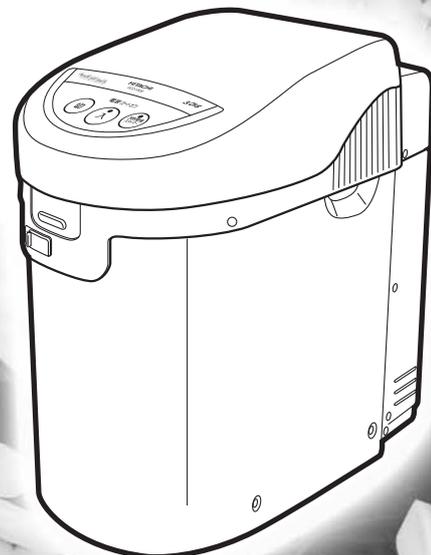
日立家庭用乾燥式生ごみ処理機

取扱説明書

ECO-VS30型 家庭用

このたびは日立家庭用乾燥式生ごみ処理機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。お読みになったあとは、保証書とともに大切に保存してください。
「安全上のご注意」は必ずお読みいただき正しくお使いください。

目　次

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

■ここに示した注記事項は

表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

警告 この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。

注意 この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

絵表示の例

絵表示	意味
(警告・注意記号)	「警告や注意を促す」内容のものです。
(禁止記号)	してはいけない「禁止」内容のものです。
(指示記号)	必ず実行していただく「指示」内容のものです。

警告

酒類やアルコール分を含むものは入れない。(酒かす・アルコール漬けの果実・薬草など)
多量の柑橘類(みかん・オレンジなど)の皮を入れない。
食用油・油脂類やそれらを含むものを多量に入れない。
殺虫剤や消臭剤などの薬品類を吹きかけたり、混入したものは入れない。
本体や処理容器に殺虫剤や消臭剤などの薬品類を吹きかけたり、入れたりしない。

- 爆発や火災・引火、自然発火の恐れがあります。

禁止

包丁などの刃物類やフォーク・スプーンなどの金属食器類、ガラス・陶磁器・金属類など処理容器を傷つけるような硬いものは投入しない。

- 処理運転時の撹拌動作やファンによる送風により思わぬけがの原因になります。

禁止

絶対に分解したり、修理・改造を行わない。

- 火災・感電・けがの原因になります。
- 修理は、販売店または日立の「ご相談窓口」にお問い合せください。

分解禁止

定格15A以上・交流100Vのコンセントを単独で使う。

- 他の器具と併用すると、分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。

電源

アース線は確実に取り付ける。

- アース線を取り付けないと漏電のとき感電することがあります。アースの取り付けは、必ず電気工事店または日立の「ご相談窓口」にお問い合せください。

アース線接続

傷んだ電源コードや電源プラグ、ゆるんだコンセントは使用しない。

- 感電・ショート・発火の原因になります。

禁止

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない。

- 感電やけがをすることがあります。

ぬれ手禁止

電源プラグは、刃および刃の取り付け面にほこりが付着している場合はよくふく。

- 火災の原因になります。

清掃

子供だけで使用させない。

- 感電・やけど・けがの原因になります。

禁止

電池類・石油類・灯油・ベンジンなど、引火・爆発するものは絶対に入れない。

- 爆発や火災・引火の恐れがあります。

禁止

ふたをあけたままで雨の中に置いたり、本体内部の水洗いはしない。

- 感電・ショートの原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。
(傷つけ・加工・無理な曲げ・引っ張り・ねじり・重いものを載せる・挟み込むなどしない)

- 電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。

禁止

お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜く

- 感電やけがをすることがあります。

電源プラグを抜く

安全上のご注意

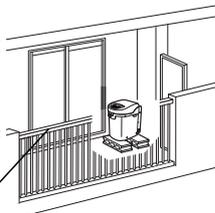
⚠警告

本体に乗ったり、物をのせない。
- 転倒してけがをしたり、ベランダでは転落する原因になります。

禁止

屋外に据え付けるときは、土や芝生の上に置かない。置く場合は、ブロックなどを敷く。
- 感電・ショート・発火の原因になることがあります。

本体の据え付けは、壁から5cm以上離し、緊急時に障害にならない場所を選定する。
- 緊急の場合、避難できなかったり消火作業の障害になる恐れがあります。

マンションなどベランダに本体を据え付ける際は、手すり側に据え付けない
- 落下・転倒やお子さまが踏み台にして転落する原因になります。

禁止

石油類やプロパンガス、スプレー缶などの引火しやすいものを本体に近づけない
- 爆発や火災の恐れがあります。

禁止

本体に直接水をかけない。ふたや本体にひびが入ったり、破損した状態では使用しない。
- 感電・ショートの原因になります。

禁止

直接雨ざらしになる場所や、雨水がたまり、水浸しになるような場所に据え付けない
- 感電や漏電による火災の恐れがあります。

禁止

幼児に乾燥室の中をのぞかせない。また本体の近くに台を置かない。
- やけど・けがの原因になります。

禁止

⚠注意

必要時以外は必ずふたを閉める。
- ふたが開いたままになっていると、雨が本体内部にかかったり、強い風でふたが急激に閉まるなど故障、感電やけがの恐れがあります。また小動物（犬、猫など）が入って事故になる恐れもあります。

本体は、壁などから必ず5cm以上離す。周囲は、必ず上面、前面および左右どちらかの側面は開放する。
- 排気の流れが悪くなり、内部温度が上がったり、壁が変色する原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグ部分を持って引き抜く
- 感電やショートして発火することがあります。

電源プラグを抜く

運転中、運転終了後しばらくは高温部分にふれない。
（高温によるやけどの原因）

接触禁止

本体が熱くなっているので、電源スイッチ以外は触れないでください。とくにハンドル、本体後部および本体内部（処理容器、内ふた等）は高温になりますのでやけどの原因になります。

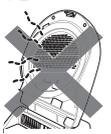
じゅうたんなど、毛足の長いもの、熱に弱いものの上に直接設置しない。
- じゅうたんの変質、変色を招くことがあります。

禁止

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。
（感電・漏電の原因）
- 絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になることがあります。

電源プラグを抜く

お手入れは、本体上面および本体内部の処理容器が冷めてから、手袋着用で行う。
- やけどをする恐れがあります。

運転中はふたを開けない。
- 本体内部が高温状態のため、やけどの恐れがあります。

禁止

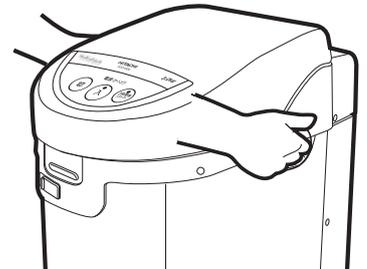
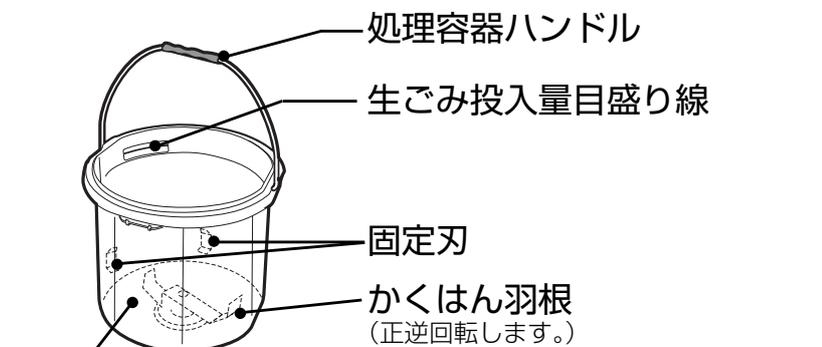
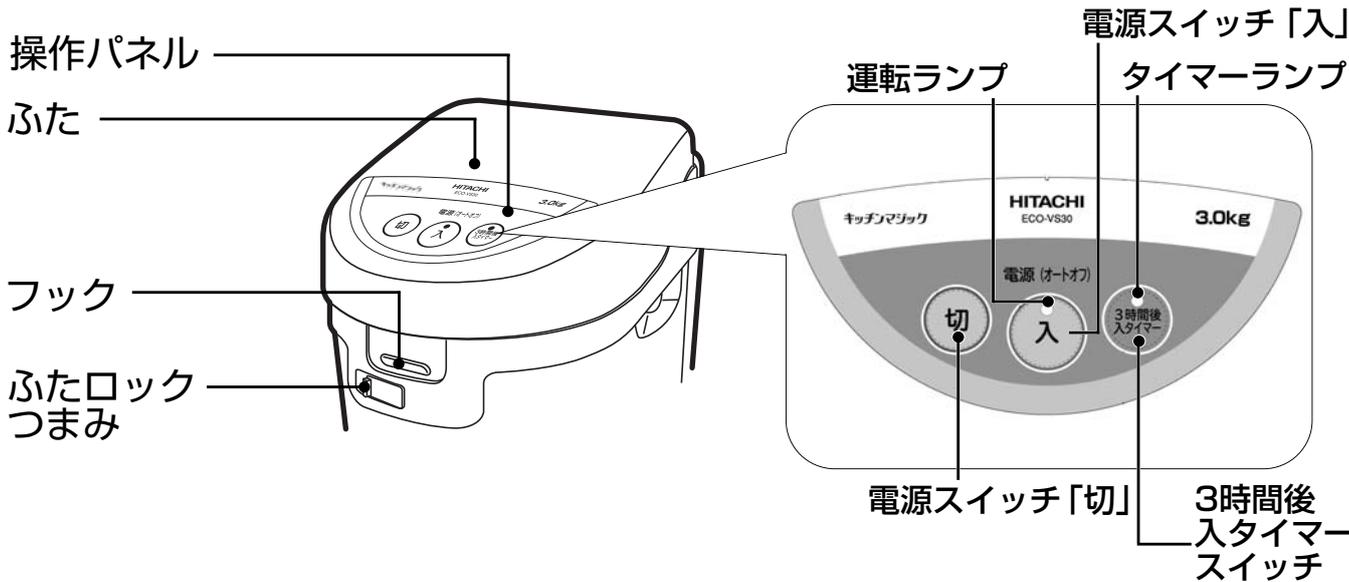
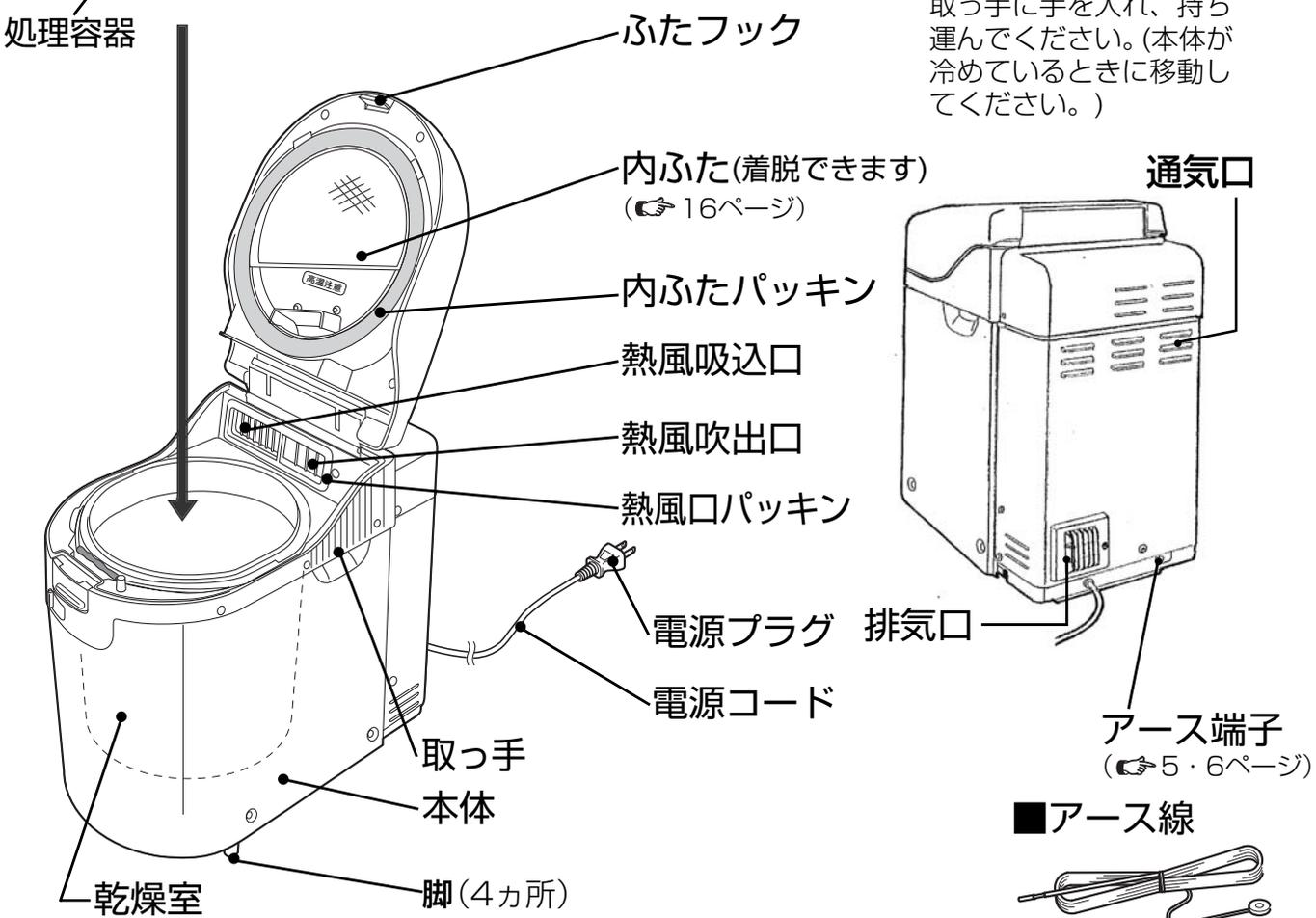
運転中は「ふたロックつまみ」を矢印方向にスライドさせる。
不用意に「フック」に触れた場合、ふたが開いて高温の湯気でやけどをすることがあります。

本体の上に物を置かない。
- 過熱して変形の恐れがあります。

禁止

ふたは確実に止まるまで開ける。
- 途中で止めておくと、ふたが自重で急に閉じることがあります。

禁止

各部のなまえ

操作パネル
ふた
フック
ふたロック
つまみ
電源スイッチ「入」
運転ランプ
タイマーランプ
キッチンマジック
HITACHI
ECO-VS30
3.0kg
電源（オートオフ）
切
入
3時間後
入タイマー
電源スイッチ「切」
3時間後
入タイマー
スイッチ
処理容器ハンドル
生ごみ投入量目盛り線
固定刃
かくはん羽根
（正逆回転します。）
処理容器
ふたフック
内ふた(着脱できます)
（☞16ページ）
内ふたパッキン
熱風吸込口
熱風吹出口
熱風口パッキン
電源プラグ
電源コード
取っ手
本体
乾燥室
脚（4ヵ所）
高温注意
※移動時には、本体側面の
取っ手に手を入れ、持ち
運んでください。(本体が
冷めているときに移動し
てください。)
通気口
排気口
アース端子
（☞5・6ページ）
■アース線

据え付け要領

●電気工事やアース(接地)工事はお買い上げの販売店または電気工事店に依頼してください。

アース(接地)工事について

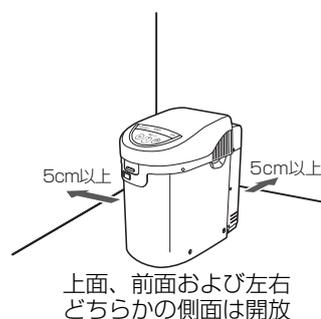
アース工事は、電気設備技術基準等に関する法令・規則等に従って必ず「法的有資格者」によるD種接地工事（接地抵抗100Ω（オーム）以下）を行ってください。
●漏電時に感電の恐れがあります。

〈適する場所〉
アース棒は常に湿気のある所など適切な場所を選定して埋設してください。
〈不適切な場所〉
1）地下埋設場所（例：ガス管、水道管、地下ケーブル、引込管など）
2）避雷針や電話のアースから2m以内
3）ガス、酸などで腐食の恐れがある場所
4）人通りの激しい場所

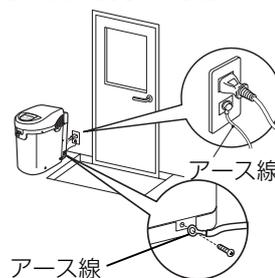
屋内の据え付けかた

1 本体据え付け場所の選定をする

●生ごみ処理中にニオイや蒸気が出ますので勝手口近くや換気扇のあるところに据え付けてください。
●本体は、床面の強度のある場所に据え付けてください。
●じゅうたん等毛足の長いもの、熱に弱いものの上は避けてください。
●本体の周囲に灯油などの可燃物のある場所は避けてください。
●本体は、壁などから必ず5cm以上離してください。
●周囲は、必ず上面、前面および左右どちらかの側面は開放してください。

上面、前面および左右どちらかの側面は開放

箱の中に入れたり、周囲を囲んだりしますと、過熱による故障の原因や周囲の壁を汚します。

2 本体を据え付ける

●本体を水平に据え付けてください。

3 アースを確実に取り付ける

●本体後面のアース端子に、付属のアース線を接続します。
●アース線の先端の皮をむき、アース端子付コンセントのアース端子に確実に固定します。
●アース端子がない場合は、アース工事を行ってください。

■据え付け例：勝手口付近

屋外(軒下)・ベランダの据え付けかた

本体を屋外(軒下)・ベランダに据え付ける際、準備していただきたい工事部材

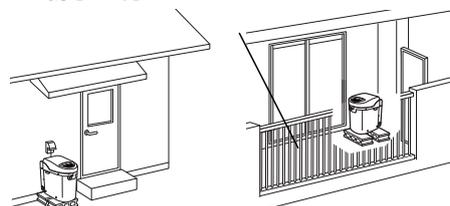
●コンクリートブロック(2枚) ●アース棒 ●アース付き防雨形コンセント ●鎖または針金
ホームセンターなどでお買い求めください。

1 本体据え付け場所の選定をする

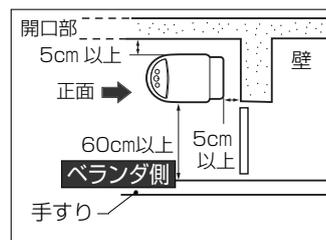
●軒下、出窓の下、勝手口の近くなど、雨ざらしにならないところを選んで据え付けてください。
●直射日光の当たる場所はさけてください。
●潮風の当たる場所(地域)では、潮風防止の小屋などを設けてください。
●本体は壁などから必ず5cm以上離してください。

〈据え付け例〉
■勝手口付近

■ベランダ

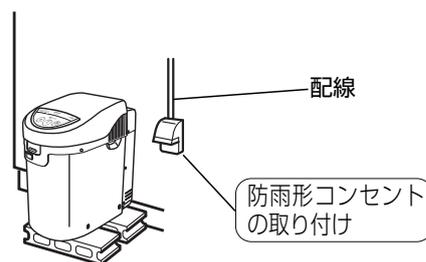
次ページにつづく ▶

(つづき) 屋外(軒下)・ベランダの据え付けかた

本体据え付け場所の選定をする (つづき)

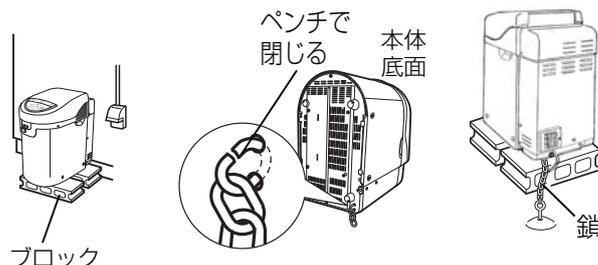
●周囲は、必ず上面、前面および左右どちらかの側面は開放してください。
●ベランダに据え付ける場合、本体を手すり側に据え付けないでください。(お子様が踏み台などにして転落する原因になります。)
●避難器具、避難ハッチや、消防隊進入の障害とならない場所に据え付けてください。
●二方向避難路側のベランダには据え付けないでください。
●石油類やプロパンガスなどの引火しやすいものの近くに設置しないでください。(2m以上離す)

箱の中に入れたり、周囲を囲んだりしますと、過熱による故障の原因や周囲の壁を汚します。

2 電源コンセントの取り付けと配線工事 (電気工事士の有資格者が行ってください。)

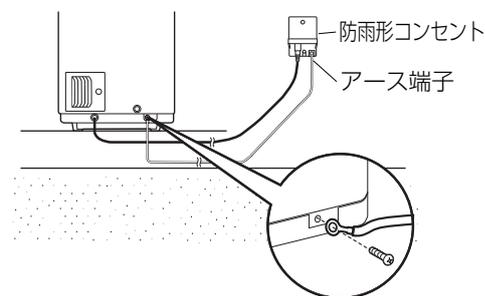
屋外に電源コンセントがない場合

1.アース付き防雨形コンセントを取り付ける
2.配線する

3 本体を据え付ける

●本体を水平に据え付けてください。

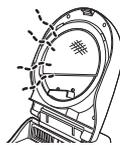
1.本体の据え付け場所にブロックを敷く
(雨天時における雨水のはね返り防止のため)
2.移動防止の「鎖」を取り付ける
(1) 本体底面の穴に鎖、針金などを通して(または鎖の先端を引っ掛ける)セメントで埋設したり、丈夫な壁などに固定してください。
(2) 鎖の引っ掛け部をペンチなどで閉じてください。

「鎖」を壁面へ取り付ける際は
●メタルラス張り・ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に電気的接触しないようにしてください。(「電気設備に関する技術基準182条」により義務づけられています。)

4 アースを確実に取り付ける

●本体後面のアース端子に、付属のアース線を接続します。
●アース線の先端の皮をむき、アース端子付コンセントのアース端子に確実に固定します。
●アース端子がない場合は、アース工事を行ってください。

据え付け終了後の運転確認

1. 電源プラグをコンセントに差し込む
2. 電源スイッチ「入」を約1秒以上押す
3. 「運転ランプ」の点灯と、かくはん羽根の回転音を確認する
(運転ランプの点灯から約5秒経過すると約10秒間間欠回転します。)
4. 電源スイッチ「切」を押して運転を停止する

知っておいていただきたいこと

生ごみ投入時	生ごみ処理時・処理後
投入できる生ごみとできないごみを必ず分別し、処理できる生ごみのみを投入してください。（事故や故障の原因になります。）（☞8・9ページ）	処理容器の中で生ごみが腐敗しないように早めに処理してください。（腐敗が進んで悪臭がする場合があります。）
肉、魚、揚げ物、でんぷん類や果物、柑橘類（みかん・オレンジ・グレープフルーツ等）の皮だけなど、単品の生ごみを処理する場合は、処理がうまくいかない場合があります。（処理中ニオイがする場合があります。）（☞11ページ）	処理中や運転ランプ消灯直後は、ふたを開けないでください。（ニオイの発生や内部が高温のため、やけどをする恐れがあります。）
処理容器の生ごみ投入量目盛り線以上の詰め込みを避け、生ごみの水分を十分に切ってから投入してください。（過度に詰めこみますと、処理状態が悪くなったり、内ふたに目詰まりしたり、ニオイの発生や故障の原因になります。（☞ 10ページ））	乾燥直後の処理物は、特有のニオイが残ります。できるだけ冷やしてから、ふたを開けてください。
乾燥処理物が処理容器に半分位たまっているときは、新しく投入するごみの量によっては詰め込みすぎになることがあります。一度捨ててから生ごみを投入してください。（☞14ページ）	生ごみの処理中は、かくはん羽根が間欠回転するため間欠音がします。（故障ではありません。）
パン、クッキー、卵のから、えびのから、ぬか床やみそなどの粘性物などを処理する場合は他の生ごみといっしょに処理してください。(処理したごみの粉じんによる目づまり等、故障の原因になります。)（☞11ページ）	長く快適にお使いいただくために、本体内部にごみが付着したときは、お手入れをしてください。また、処理容器を洗う場合には、洗剤を使わないでください。こびりつきやすくなります。（☞ 15・16ページ）
少量のごみを処理する場合は、十分に乾燥しない場合があります。次のごみを続けて投入し、処理してください。	腐敗したごみは投入しないでください。（ニオイの発生や故障の原因になります。）

排気口からの排気風や、周囲の空気のまき込みなどにより、床や壁を汚す場合があります。ときどき、周囲の床や壁を掃除してください。なお、壁面などに汚れが付く場合は、壁等から離して設置することで汚れを軽減できます。

ご使用の前に常に確認してください

本体周囲が物でふさがれていませんか？
故障の原因になります。また植物は排気口の近くに置くと、熱で枯れることがありますので置かないでください。（☞ 5ページ）

脚（4カ所）は水平に据え付けられていますか？
振動音がすることがあります。
ガタつきがある場合は、薄い板などをはさんでガタつきをなくしてください。

ふたは常時閉めてありますか？
ふたが開いたままになっていると、雨が本体内部にかかったり強い風でふたが急激に閉まるなど故障、感電やけがの恐れがあります。また小動物（犬、猫など）が入って事故になる恐れもあります。**必要時以外は、必ずふたを閉めてください。**
運転中は必ず**ふたロックつまみ**をロックしてください。

投入できる生ごみ・投入できないもの

生ごみを分別します

投入できるものと、投入できないものがありますので、あらかじめ必ず分別してください。

●処理できるものは家庭で発生する生ごみだけです。

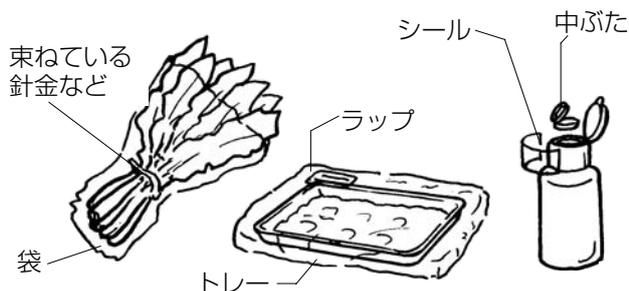
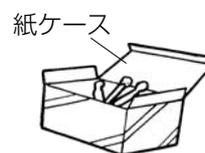
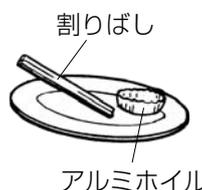
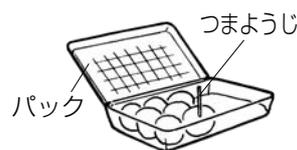
投入できる生ごみ

人間が食べられるものであれば処理可能です。

ご注意 凍っている生ごみは解凍してから投入してください。かくはん羽根がロックして故障の原因になります。

投入できないもの

●次のものは、生ごみにまぎれ込みがちです。投入しないでください。

故障の原因になるもの

投入できないもの

爆発・引火の恐れがあるもの

⚠ 警告

禁止

酒類やアルコール分を含むものは入れない。（酒かす、アルコール漬けの果実・薬草など）
多量の柑橘類（みかん・オレンジなど）の皮を入れない。
食用油・油脂類やそれらを含むものを多量に入れない。
殺虫剤や消臭剤などの薬品類を吹きかけたり、入れたりしない。
本体や処理容器に殺虫剤や消臭剤などの薬品類を吹きかけたり、入れたりしない。
●爆発や火災・引火、自然発火の恐れがあります。

※絶対に投入しないでください。

石油類

アルコールおよびアルコール分を含む食品（酒かすなど）

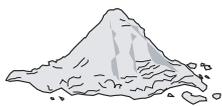
酒類（果実酒・薬用酒など）

アルコール（焼酎・ホワイトリカーなど）漬けをした果実（うめ、ざくろなど）・薬草などの薬材料
キムチなどの発酵系の食品

その他
●缶類（スプレー缶など）
●花火　●電池類
●ライター　●マッチ

故障の原因になるもの

処理できない生ごみ

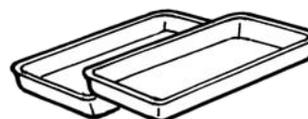
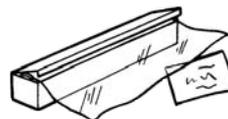
牛・豚・鶏などの骨

小麦粉・米ぬか・バイオ基材などの粉末状のもの

硬い貝殻、かにのから、梅干し・桃などの種、くるみなど

食器類など

ガラス・陶磁器・金属類

スチロールトレー・容器

木竹製品

ポリ袋・ラップなどのシート類

紙類

輪ゴム

木くず・小枝・草・葉など

生ごみの入れかた

1 生ごみの下処理をする

●処理時間の短縮や良好な処理をするための準備をします。

① 水分は十分に切ってください。

② ごぼう、とうもろこしのしんなど硬くて大きいものや、とうもろこしの皮、たけのこの皮、長ねぎなどの細長い繊維の多い野菜は、5cm以下に小さくしてください。
（かくはん羽根の巻き付きやロックにより故障の原因になります。）

2 ふたを開ける

① 「ふたロックつまみ」を矢印方向に解除する。

② 「フック」を押す。（ふたが半開きします。）

③ 手を添えながら、ふたを最後まで開ける。

お願い
- ふたは確実に止まるまで開けてください。無理に開けたり、力を加えたりはしないでください。
（途中で止めておくと、ふたが自重で急に閉じることがあります。）
- 生ごみを投入するとき、「生ごみ投入量目盛り線」を越える場合は処理容器内のごみを取り出してください。（☞ 14ページ）
- 内ふたにごみが付着しているときは必ず取りのぞいてください。（☞ 15ページ）

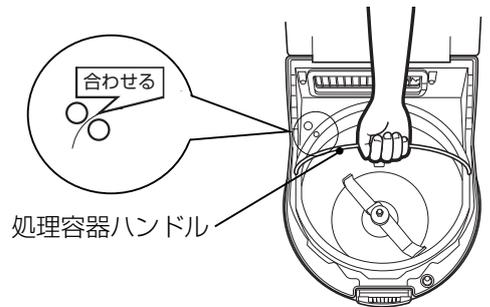
ご注意
- 強い風のときはふたが急激に閉まることがありますのでご注意ください。
- 処理後続けて使用する場合は、本体内部が高温になっているのでやけどに注意してください。

3 処理容器のセットを確認する

処理容器がセットされていないときは、セットします。

①処理容器の○印と本体の○印を合わせてセットします。

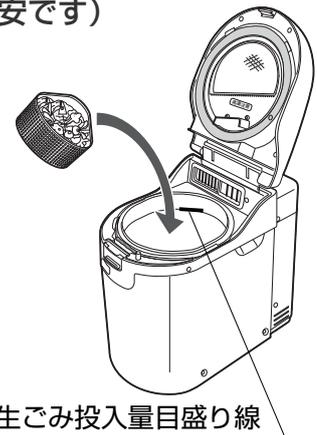
②処理容器ハンドルを手前に倒す。（フック側）

ご注意
- 処理容器をセットしないで生ごみを直接入れないでください。故障の原因になります。

4 分別した生ごみを入れる （☞8ページ）

●水切りした生ごみを処理容器に入れる。

ご注意
- 「生ごみ投入量目盛り線」以上に生ごみを入れないでください。
- 生ごみを押し込んで「生ごみ投入量目盛り線」以下にしないでください。量が多い場合は分けて処理してください。
- 生ごみはほぐして入れてください。

無理に押し込んだり、固まっていると、生ごみが処理不足（未乾燥）になることがあります。また、ニオイの発生や故障の原因になります。

●生ごみが出たらそのたびに投入できます。（処理は1日に1回が目安です）

ふたを閉める

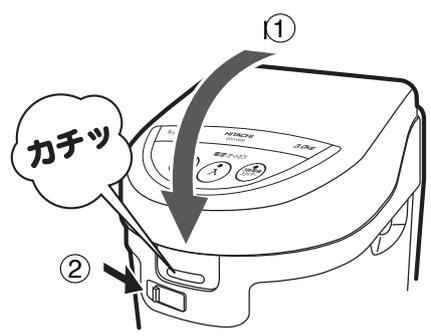
①「カチッ」と音がするまでゆっくり閉める。

- 処理容器や内ふたが確実にセットされていないと、ふたが閉まりません。

②「ふたロックつまみ」を矢印方向に押し、ロックする。

ご注意

- ふたロックつまみをロック側にした状態でふたを閉めないでください。（故障の原因になります。）

お願い

●ふたは勢いよく閉めないでください

⚠注意

乾燥処理後続けて使用する場合は、本体内部の高温部に触れない。

- やけどの恐れがあります。

かたよった生ごみを続けて処理する場合

処理不足の状態になったり、処理中ニオイがする場合がありますが故障ではありません。

野菜・果物などの水分量が多い

サラサラの乾燥状態にならない

魚･天ぷら等（油分が多いもの）が多い

乾燥しない油分が残り液状になる

麺類・ご飯類（澱粉類）が多い

ダンゴ状に固まるまたはこびりつく

みかんの皮・キャベツの芯等

細かくならないニオイがする

→ 処理不足の状態になっても、他の生ごみを継続して追加・処理すると、乾燥状態も粉砕度も除々に良くなります。

大きな生ごみは、5cm以下に小さくしてください。

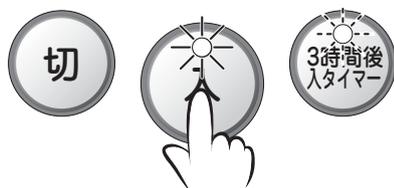
お知らせ

●乾燥式生ごみ処理機は、生ごみの水分が蒸発するため処理後も小さく形が残ります。

●たまご、えびのから、魚の骨、パンなど、水分が少ないものは形が残ることもあります。

生ごみの処理

通常処理

1 電源スイッチ「入」を約1秒以上押す

■運転ランプが点灯し、タイマーランプが点滅します。

運転中は次の動作を行います。

①5秒後にタイマーランプが消灯し、かくはん羽根が約10秒間正逆回転します。

②約2分後にファンが回転します。

③約30分後、処理温度によってかくはん羽根が正逆運転します。

この状態で処理が続きます。

④処理が終了すると運転ランプが点滅し冷却中になります。

⑤約15分間冷却後自動的に運転ランプが消え、停止します。

- 処理を途中で停止させるときは、電源スイッチ「切」を押します。
- 運転途中に電源スイッチ「切」を押した後や処理終了後に本体内部を冷却するため、ファンが約1分間回転します。

タイマー処理（3時間後入タイマーモード）

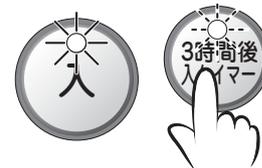
●3時間後に処理を開始します。

寝ている間や深夜電力※を使いたい場合に有効です。生ごみの量によっては朝になっても運転している場合があります。

1 電源スイッチ「入」を約1秒以上押す

■運転ランプが点灯し、タイマーランプが点滅します。

2 3時間後入タイマースイッチを押す

■タイマーランプが点滅している間(約5秒間)に押します。

- 点滅中に押さないとそのまま通常処理を行います。再度セットする場合は、一度電源スイッチ「切」を押してから再セットしてください。

タイマー処理中は次の動作を行います。

①タイマーランプが点灯に切り替わり、タイマー待ち状態になります。

3時間後

②タイマーランプが消灯します。

③その後の動作は通常の処理と同じ動作になります。

●タイマー処理中(3時間)にふたを開けますと最初からやり直しになります。

再度設定する場合はふたを閉めて電源スイッチ「入」を押し、3時間後入タイマースイッチを押してください。(この場合押し直したときから3時間後のスタートとなります。)

※時間帯別電灯契約を示します。
（契約内容は、電力会社にお問い合わせください。）

生ごみ処理中のお願い

●運転中はふたを開けないでください。
内部が高温のためやけどの恐れがあります。運転中にふたを開けると、自動的に電源スイッチが切れて運転が停止します。

●室内使用時、乾燥のために発生する湿気・熱気・ニオイが気になる場合は、換気をしながらお使いください。

上手な使いかた

●毎食後の残飯・残菜（少量の生ごみ）を、その都度処理するよりも、一日分を夜にまとめて処理するほうが時間短縮に効果的です。

生ごみの量と処理時間の目安

●処理時間の目安は、生ごみ（標準生ごみ）の量が約400gのとき約1時間30分、約700gのとき約2時間10分、約3.0kgのとき約8時間です。
生ごみの種類・量・水分量・温度、使用される周囲温度・電源電圧等の環境によって処理時間が変動します。
ただし、特に水分量が多い生ごみの場合には、乾燥が不十分でも最長約9時間で停止するようになっています。
（標準生ごみ：日本電気工業会の自主基準に基づく生ごみ）

処理したごみ（乾燥処理物）の取り出し

●処理した生ごみが処理容器の約半分位までたまったらごみを取り出してください。
処理したごみの状態が粉塵状に細かくなっている場合は、少量でもごみを捨ててください。
（続けて処理すると細かいごみが内ふたのあみにつまって処理不良や故障の原因となります。）

1 ふたを開ける

運転ランプの消灯を確認してから

●ふたは静かに開けてください。
（ふたに付着した乾燥処理物が飛び散ることがあります。）
●内ふたパッキンにごみが付着している場合は、必ずごみを取りのぞいてください 。（ ☞ 15ページ）

2 処理容器を取り出す

●運転終了直後は、処理容器ハンドルが熱くなっています。冷えてから取り出してください。
●内ふたに当たらないように、ゆっくりと持ち上げてください。

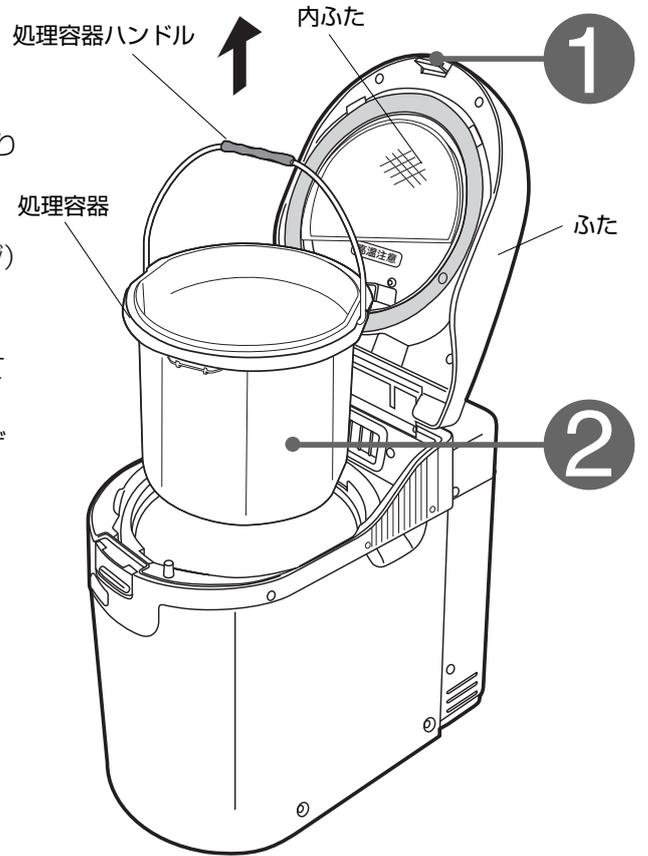
3 ごみを捨てる

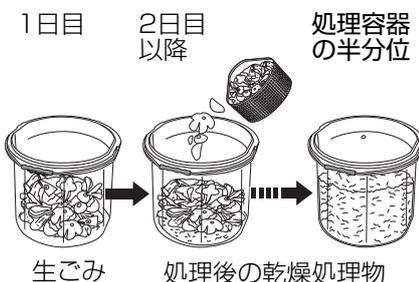
●一般ごみと一緒に捨てられます。
また、園芸などの乾燥･有機肥料素材として利用できます。
（☞ 18ページ）

ご注意 処理容器を落としたり、たたいたり、衝撃を加えたりしないでください。
（破損の原因となります。）

4 処理容器をセットする

（☞ 10ページ）

●処理容器と本体の○印の位置を合わせてセットし、ハンドルを手前に倒してふたを閉めてください。（ハンドルを手前に倒さないと、処理容器ハンドルが変形することがあります。）

上手な使いかた(ごみ出し回数を減らすために)

乾燥処理物の上に追加投入し、続けて処理できます

●乾燥処理物がかくはん羽根の周囲にかたまった場合は、くずしてから、その上に生ごみを投入して処理します。
●乾燥処理物が処理容器に約半分位になったら捨ててください。

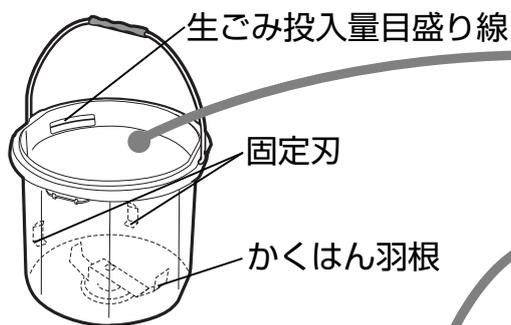
各部のお手入れ

警告
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜く。また、ぬれた手で抜き差ししない。
●感電やけがをすることがあります。

お手入れは、本体上面および本体内部の処理容器等が冷めてから行う。
●やけどをする恐れがあります。（**お手入れのときは手袋を使用してください。**）

❶ 生ごみを入れるときのお手入れ（毎回）

生ごみを入れるときは内ふた、内ふたパッキンや熱風口パッキンにごみが付着している場合はお手入れをしてください。「内ふた」のあみがごみでふさがれていると、ニオイや乾燥効率の低下や故障の原因となります。（☞ 16ページ）

❷ 乾燥処理物を捨てたあとのお手入れ

処理容器

●処理容器を湯または水に浸した後、スポンジで洗ってください。こびりつきやすくなりますので、洗剤は使用しないでください。

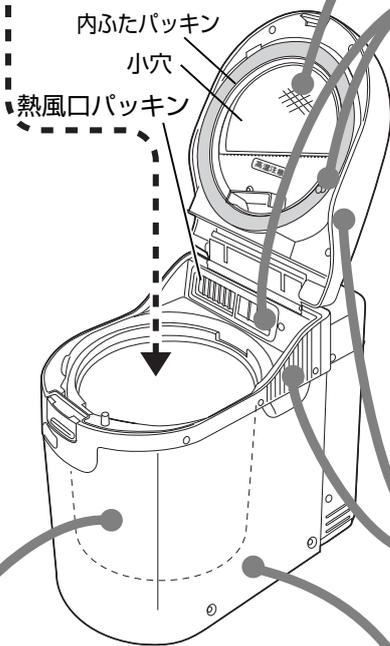
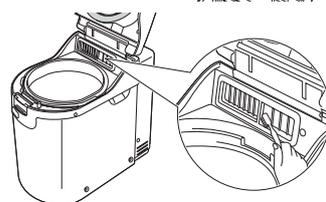
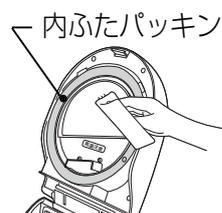
内ふた

●16ページに従ってお手入れしてください。

内ふたパッキン・熱風口パッキン

●濡らして軽くしぼった布などで清掃してください。また、内ふたパッキンに付着したごみは取り除いてください。（パッキンの変形やにおい発生の原因になります。）

●熱風吹出口や熱風吸込口付近に付着したごみはお手持ちの歯ブラシなどで処理容器側へかき出してください。

●ごみが熱風吹出口、熱風吸込口の中に入らないように注意してください。

外　側

●本体外側のプラスチック部分や操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどいときは、水で薄めた台所用中性洗剤に浸した布をかたくしぼってふき取ってください。

（お手入れには、シンナーやベンジンなどは使用しないでください。またクレンザーやみがき粉などは使用しないでください。）

●本体外側の金属部分は、ステンレス鋼板を使用しておりますが、据え付け場所の環境により、空気中のちりやほこりが付着しサビが発生する場合があります。
次の様にお手入れしてください。
① 柔らかい布または、スポンジに粒子の細かいクリームクレンザー（液体）をつけてこすり落とします。
② その後、水に浸した布をかたくしぼってふき取ってください。

（お手入れには、シンナーやベンジンなどは使用しないでください。）

乾燥室

●水をかけたり、水洗いしないでください。（故障の原因になります。）

●水を含ませた布をよく絞って、ごみや汚れをふき取ってください。

内ふたのお手入れ

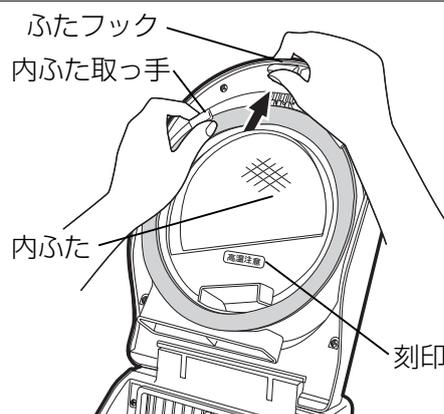
処理する生ごみによっては、内ふた内部にごみが付着することもあります。
長く快適にお使いいただくために、点検・お手入れをしてください。

●内ふたを取り付けたまま、水洗いや水をかけないでください。(故障の原因になります。)

1 内ふたを取り外す

① ふたを開いた状態で「内ふた取っ手」を手で押さえながら「ふたフック」を押し上げます。

② 内ふたがはずれますので、両手で持ち上げはずします。

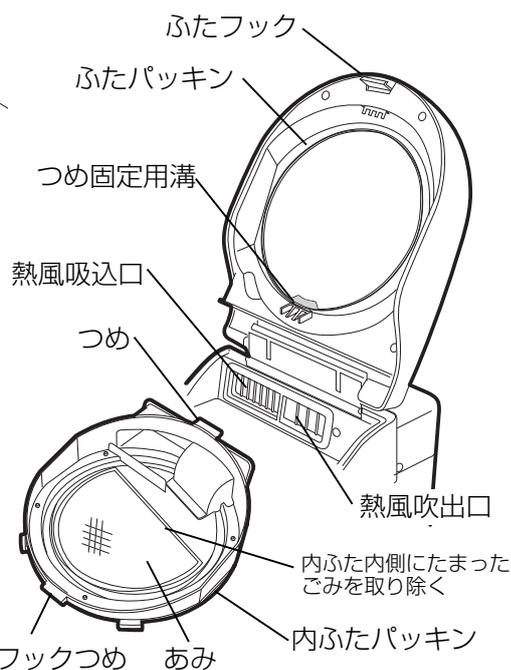
●必ず内ふたを押さえてください。

2 お手入れをする

●内ふたの内側に付着したごみや、特に内ふたのあみのごみをお手持ちの歯ブラシなどでかき落としてください。内ふたパッキンに付着したごみもきれいに取り除いてください。
水洗いした場合は、よく乾かしてください。
（金属などの固いものは傷がつく恐れがありますので使用しないでください。）

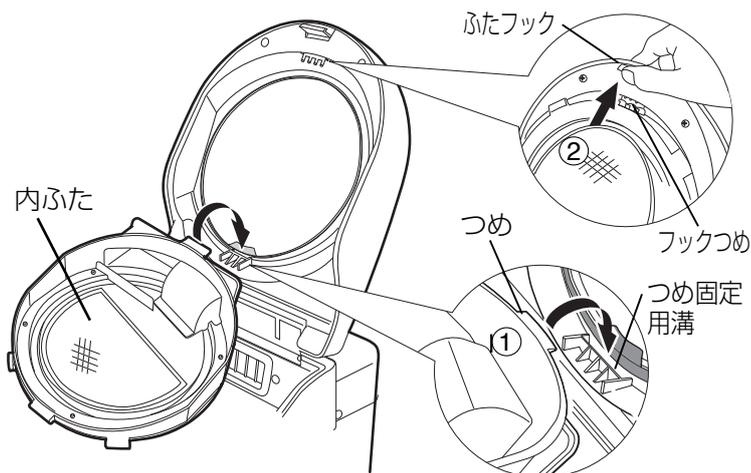
●熱風吹出口、熱風吸込口に付着したごみも同様に歯ブラシなどでかき出してください。

●ふたの内側は、濡らして固くしぼった布などで清掃してください。また、ふたパッキンに付着したごみは取り除いてください。（ニオイの発生原因となります）

●ごみを熱風吹出口や熱風吸込口の中に押し込まないでください。(故障の原因になります。)

●内ふたを落としたり、たたいたり、ぶつけたりしないでください。破損してにおいがもれることがあります。

3 内ふたを取り付ける

①「高温注意」の刻印面を手前にし、「つめ」を「つめ固定用溝」に挿し込みます。ふたパッキンがめくれ、挟み込まれないように注意してください。
（ニオイもれの原因になります。）

②「ふたフック」を押し上げて、内ふたの「フックつめ」に「ふたフック」をかけてください。

故障かな・・・・・と思ったら

次のことをお調べください

こんなときは		調べるところ	直しかた
電源スイッチを押しても作動しない		●電源プラグがコンセントから抜けていませんか。 ●ふたが確実に閉まっていますか。	●電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。 ●「カチッ」と音がするまで確実に閉めてください。（☞11ページ）
処理されていない		●運転ランプの点灯中やタイマーランプ点灯中に、ふたを開けませんでしたか。 ●運転ランプの点灯中やタイマーランプの点灯中に、電源プラグが抜けたり停電しませんでしたか。	●運転中やタイマー運転中はふたを開けないでください。ふたを開けると電源が自動的に切れます。再度ふたを閉め、電源スイッチ「入」を押すと、運転が最初からスタートします。 ●運転中やタイマー運転中に電源が切れますと停止状態になります。電源スイッチ「入」を押して最初からスタートしてください
処理時間が長くかかる 十分に乾燥されていない		●水分量の多い生ごみ類を多く入れていませんか。	●水分の多い場合は、乾燥に時間がかかります。乾燥されていない場合は、もう一度処理運転を行ってください。
		●生ごみが多量に入っていたり、詰めすぎたり固まったりしていませんか。	●処理容器の「生ごみ投入量目盛り線」までに減らしごみをほぐしてから、再度処理を行ってください。（☞10ページ）
		●内ふた内に乾燥処理物の細片が入って、内ふたのあみがつまっていませんか。また熱風吹出し口や熱風吸込口がごみでつまっていませんか。	●内ふたと本体内部をお手入れしてください。（☞15・16ページ）
		●排気口や本体周囲をふさいでいませんか。	●障害物を取り除いてください。（☞5ページ）
		●ごみの種類がかたよっていませんか。（でんぷん類・果物類など）	●かたよらないように、他の生ごみと混ぜて処理してください。（☞11ページ）
		●固いごみや大きなごみを入れていませんか。	●5cm以下に小さくして、ほぐして処理してください。
本機は処理時間が異常に長い場合、過熱防止等の安全のため運転スタートから最長約9時間で運転停止し、自動的に電源が切れるようになっております。			
運転中にランプが点滅してしまう	○ 運転ランプ 消灯 ☀ タイマーランプ 点滅	●製品の周囲温度が高くなっています。屋外使用時直射日光のあたる場所に据え付けていませんか。 ●本体周囲を囲ったり、ふさいでいませんか。	●直射日光のあたらない場所に移してください。 ●囲いまたはふさいでいる物を取り除いてください。（☞5ページ）
	☀ 運転ランプ ☀ タイマーランプ 交互点滅	●水分量の多いごみ、種類がかたよっているごみ、固まっているごみや詰め込みすぎ状態になっていませんか。	●生ごみをとり出し、分別して入れ直して、再度スイッチを入れてください。
	☀ 運転ランプ ☀ タイマーランプ 同時点滅	●アルコール系のごみ、腐敗ごみ、発酵系のごみを入れませんでしたか	●処理容器内の処理物を取り除いてください。

※ランプの点滅は、約24時間で消灯し自動的に電源が切れるようになっています。

こんなときは	調べるところ	直しかた
ラジオ、コードレス電話などに雑音が入る	●ラジオまたはコードレス電話を本体の近くに置いていませんか。	●ラジオまたはコードレス電話を本体から2m以上離すか、向きを変えてください。受信感度が弱い場合にはさらに雑音が小さくなるまで離してください。
運転中大きな音がする	●投入できないごみを入れていませんか。 ●大きな乾燥物や硬い物が入っていませんか	●生ごみをとり出し分別して処理してください。(☞ 8・9・10ページ)
処理中に強いニオイがする	●熱風吹出口、熱風吸込口や内ふたの小穴が目づまりしていませんか。 ●内ふたパッキン部および、処理容器上面にごみが付着していませんか。 ●ふたパッキン部にごみが付着していませんか ●内ふたがきちんと取りつけてありますか ●熱風口パッキンにごみが付着していませんか ●ごみの種類がかたよっていませんか。 ●処理容器内に処理したごみが一杯になっていませんか ●腐ったごみを処理していませんか。	●ごみを取り除いてください。(☞15ページ) ●ごみを取り除き、清掃してください。(☞ 15ページ) ●ごみを取り除き、清掃してください。(☞16ページ) ●内ふたの取り付け方法(☞ 16ページ)にしたがって取り付けてください。 ●ごみを取り除き、清掃してください。(☞15ページ) ●他の生ごみと一緒に処理してください。(☞ 11ページ) ●処理したごみを取り出してから処理してください。(☞ 14ページ) ●生ごみは腐敗しないよう早めに処理してください。

乾燥処理物の活用

処理物は投入された生ごみの種類とその量、処理状態などにより多様な状態となるため肥料としての効果に差が生じる場合があります。

堆肥にして園芸に活用する方法

① ポリ袋(米袋など)を用意し、下側に穴をあけます。(20ヶ所程度)

② その中に乾燥処理物と腐葉土を入れ、よく混ぜます。

体積の割合

乾燥処理物		腐葉土
8L	:	10L

(例) 4人家族の1ヶ月分(約8L)を堆肥にした場合

③ その上から湿らす程度に、じょうろで散水します。

④ 袋を締め、月日を記入し、日陰で保管します。

堆肥が完熟になる目安は、夏場で約1ヶ月
冬場で約3ヶ月
保管中は時々かき混ぜてください。

●完熟堆肥は直接、植物の根に触れないように埋めてください。

仕様

定格電圧	AC100V
定格周波数	50-60Hz　共用
定格消費電力	850W
電源コード	約2m
最大処理量	約3kg/回
外形寸法	幅265mm×奥行448mm×高さ504mm（ふたを開けたときの高さ810mm）
質量	約13kg
付属品	アース線(1本)

●長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

一般家庭用以外でご使用になるとき

食堂や寮、レストランなどでご使用になり、大量の生ごみを投入したり、一日の使用時間が一般家庭に比べて極端に長い場合には、短時間で部品の交換が必要になることがあります。
お買い上げの販売店にご相談のうえ、定期的な点検を受けてお使いになることをお勧めします。
●このようなご使用は、保証期間の対象外となります。

保証とアフターサービス（必ずお読みください）

保証書

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保存してください。
●保証期間は、お買い上げの日から1年です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または、「ご相談窓口」（☞ 20ページ）にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは 出張修理

17・18ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご相談ください。

■連絡していただきたい内容

品名	日立家庭用乾燥式生ごみ処理機
型式	ECO－VS30
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	（できるだけ具体的に）
ご住所	（付近の目印等も併せてお知らせください）
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

※銘板は本体左側面にあります。

■保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

補修用性能部品の保有期間

当社は、この乾燥式生ごみ処理機の補修用性能部品を製造打ち切り後6年保有しています。
補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

ご転居されるときは

ご転居によりお買い上げの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、前もって販売店にご相談ください。ご転居先での日立の家電品取扱店を紹介させていただきます。
●ご転居されたり、移動したりした場合には、必ず販売店または電気工事店に依頼して、アースの取り付け直し（有料）を行ってからご使用ください。（☞ 5・6ページ）

修理料金のしくみ

修理料金＝技術料＋部品代＋出張料です。

技術料	診断、部品交換、調整、修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれます。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	商品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

「ご相談窓口」

日立家電品についてのご相談や修理はお買上げの販売店へ

なお、転居されたり、贈物でいただいたものの修理などで、ご不明な点は下記窓口にご相談ください。

修理などアフターサービスに関するご相談は エコーセンターへ TEL　0120－3121－68 FAX　0120－3121－87 (受付時間) 9:00～19:00(365日) 携帯電話、PHSからもご利用できます。	商品情報やお取り扱いについてのご相談は お客様相談センターへ TEL　0120－3121－11 FAX　0120－3121－34 (受付時間) 9:00～ 17:30(月～土)、9:00～17:00(日・祝日) 年末年始は休ませていただきます。 携帯電話、PHSからもご利用できます。

- 「持込修理」および「部品購入」については、上記サービス窓口にて各地区のサービスセンターをご紹介させていただきます。
- お客様が弊社にお電話いただいた場合には、正確にご回答するために、通話内容を記録(録音など)させていただくことがあります。
- ご相談、ご依頼いただいた内容によっては弊社のグループ会社に個人情報を提供し対応させていただくことがあります。
- 修理をご依頼いただいたお客様へ、アフターサービスに関するアンケートハガキを送付させていただくことがあります。

愛情点検

● 長年ご使用の家庭用乾燥式生ごみ処理機の点検を！

● 家庭用乾燥式生ごみ処理機の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後6年です。

ご使用の際このような症状はありませんか	症状		ご使用中止	
	●電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ●電源スイッチを押しても動作しない。 ●自動的に切れないときがある。 ●運転中に異常な音が出る。 ●さわるとビリビリと電気を感じることがある。 ●その他ふたの破損などの異常や故障がある。 ●電源プラグが変形したり、電源コードにひび割れや傷がある。	▶	ご使用中止	故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。点検・修理についての費用など詳しいことは、販売店にご相談ください。

日立アプライアンス株式会社

〒105－8410 東京都港区西新橋２－15－12　電話(03)3502－2111